

Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字北海道看護大学

平成二十二年 度

入学式



平成二十二年 度日本赤十字北海道看護大学入学式が四月五日に挙行されました。新入学生は修士課程九名、学部百十六名であり、入学生紹介に続いて石井トク学長の式辞がありました。石井学長は、赤十字の人道と博愛および建学の理念について語られ、またサンIIテグジュペリの「星の王子様」を引用しながら、「大切なものは、目に見えない」からこそ、大切なものが心で見えるような人になつて欲しいと、人格を陶冶する必要性を強調されました。



大塚義治日本赤十字学園理事長（山田史常務理事代読）からは、本年が日本赤十字社で看護師の養成を開始してから百二十年目の記念すべき年であるため、赤十字の伝統を受け継ぐ意識を持ちつつ、充実した学生生活を送ってほしいとの訓辞がありました。また、来賓の小谷每彦北見市長、および伊藤義郎日本赤十字社北海道支部長（染谷一彦事務局次長代読）からは、清新な気持ちを忘れずに研鑽に励み、地域社会のみならず国内外で活動できる国民の期待に応える看護師

新入生

歓迎のこたば



学 長
石井 トク

本学ご入学の学部学生、研究科の看護学、助産学研究生の皆様、おめでとございます。

いま社会は、高度な知識・技術を有する看護師に注目しています。変革期に看護学を学ぶ好機です。社会の事象にいままで以上に関心を持ち、日々の学びに生かしてください。

昨年は赤十字思想誕生一五〇周年に相当し、日本赤十字社では二〇一三年までを「赤十字一五〇年」

になっていただきたいとの祝辞を頂きました。在校生代表の細目久自治会長は、新入生が有意義な生活を送れるように、在校生が一人丸となって応援していることを語り、新入生を歓迎しました。最後に、新入学生代表の會田絵里さんが誓いの言葉を爽やかに述べ、感動のなか閉式となりました。



として全国的に様々なイベントを企画しております。本学も今年の六月に第十一回日本赤十字看護学会学術集会を開催いたします。メインテーマは「看護師の品格を考える」です。品格を考える上で重要なことですが、私達の心の中には陥りやすい落とし穴があります。赤十字の諸原則の中に、Prataは四つの敵として、利己心、無関心、認識不足、想像力の欠如を挙げています。サンIIテグジュペリの星の王子様の中の一節に「じゃあ秘密を教えるよ。とても簡単なことだ。ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。いちばんたいせつなことは、目に見えない」とあります。見えないものを見る力をつけてください。このことを銘記して、有意義な学生生活を過ごしてください。このことを期待しております。

平成二十一年度卒業式

●学部生九十八名卒業 ●大学院生三名卒業

平成二十二年三月十日、本学講堂において看護学部卒業式・看護学研究科修了式が関係者の見守るなか厳粛に執り行われました。

出席者全員で御歌「四方の国」を斉唱し、続いて、石井トク学長から卒業証書ならびに学位記が学部卒業生九十八名（代表、和田薫さん）、修士課程修了生三名（代表、檜山明子さん）に手渡されました。その後、石井学長から「やさしさと思いやり」、「看護は観察から始まる」、「価値観から意味論、受容論」、「他人がやっていないことをする」、「観察し由来を辿り揺さぶってみる」、「人間を救うのは人間

だ」の六つのキーワードを用いて、今後への励ましの言葉が式辞の中で贈られました。引き続き、大塚義治日本赤十字学園理事長、小谷毎彦北見市長、伊藤善郎日本赤十字社北海道支部長（中島昇事務局長代読）から祝辞を賜りました。在学生を代表して角井希望さんが「先輩方の実習や勉強に対して真剣に取り組む姿に勇氣と希望を頂きました。」という送辞を読み上げ、卒業生を代表して斉藤唯さんが「実習を通して看護という仕事の責任の重さを実感し、自分の未熟さも感じることがありましたが、仲間を支えられ乗り越えることができました。



ました。」という答辞を読み上げました。卒業表彰、記念品、花束の贈呈と続き、最後に校歌を全員で斉唱して、式を終了いたしました。

学生表彰について

平成二十二年度の学生表彰の受賞者が決まりましたので、お知らせいたします。

学生表彰は、一年次から四年次までの全ての成績上位者三名程度の卒業表彰と前年度の総合成績の最上位者の学生表彰があります。

卒業表彰の受賞者は、卒業式において表彰され、記念品と奨学資金が贈呈されました。

学年表彰の表彰式は、六月の大学祭で行われる予定です。

平成二十一年度 卒業表彰

- 和田 薫さん
- 斉藤 唯さん
- 山本 梨奈さん
- 平成二十一年度 学年表彰
- 佐藤久美子さん（二年）
- 岩井 静香さん（三年）
- 寺田真梨子さん（四年）

本学の平成21年度国家試験合格状況

	受験者数	合格者数	合格率(%)	合格率(全国%)
看護師	99	99	100.0	93.9
保健師	97	82	84.5	87.8
助産師	5	5	100.0	83.2



平成21年度卒業生の進路について

	道内	道外	合計
日赤関係	55	13	68
国公立医療機関	3	1	4
大学附属病院	6	0	6
公的・各種団体医療機関	13	0	13
医療法人	2	1	3
個人	0	0	0
行政機関	2	0	2
助産所	0	0	0
進学	1	0	1
その他	2	0	2
合計	84	15	99

■日赤関係内訳

【北海道内】
北見赤十字病院十五名、釧路赤十字病院十二名、旭川赤十字病院十七名、置戸赤十字病院一名、

栗山赤十字病院二名、浦河赤十字病院一名、小清水赤十字病院一名、函館赤十字病院四名、清水赤十字病院一名

【進学】

日本赤十字北海道看護大学大学院助産学専攻一名

【北海道外】

日本赤十字社医療センター一名、八戸赤十字病院一名、さいたま赤十字病院一名、芳賀赤十字病院一名、成田赤十字病院一名、横浜市立みなと赤十字病院二名、武蔵野赤十字病院一名、日本赤十字社和歌山医療センター二名、長岡赤十字病院一名、山田赤十字病院一名、名古屋第一赤十字病院一名

第一回
助産師スキルアップセミナー

看護開発センター主催の第一回助産師スキルアップセミナーが、二月十三日に本学で開催されました。今回は、「新生児蘇生法（Bコース）研修」であり、北見市内の助産師および看護師十八名、大学教員一名、北見市の救急救命士十五名の計二十四名が受講しました。

この研修は、日本周産期・新生児医学会公認の研修であり、受講者は、規定の試験に合格すると申請後認定証が交付されます。全国的に普及されはじめているものの、この地域では二回目の開催となります。この地域でも開催が少ないため、受講希望者が多く、今回も



定員を限定した開催となりました。

コアインストラクターの室蘭日鋼記念病院の水内医師をはじめ、帯広協会病院の明石医師、本学の柳原教授、田中講師がインストラクターを務め、受講者は熱心に講義を聴講し、その後の事例設定を用いた実技演習を行いました。

演習は、主に新生児人形を用いての人工呼吸や胸骨圧迫の方法を行い、今後の安全な出産環境整備救急対応業務に備え、新生児蘇生法に関する知識や技術を習得しました。



就職説明会

四月二十四日（土）午後一時から四時まで、本学アリーナにおいて、平成二十二年度就職説明会が開催されました。

参加した学生は、一年生から四年生までの合計一六二名でした。参加施設は、道内外の赤十字病院が十七施設、その他の病院は、十七施設の合計三十四施設でした。学生達は、参加施設の資料を片手に持ち、各施設のブースに向き、就職や奨学金などについて、真剣に尋ねていました。



参加施設の皆様には、各学生にご丁寧に、個別対応で関わっていただきました。これからも末永く、温かいご支援をお願い致します。
(学生委員長 河原田榮子)



平成22年度入試概況

試験区分 募集人員等	推薦入学試験		一般入学 試験	大学入試センター試験 利用入試	社会人 入学試験
	公募推薦	指定校推薦			
募集人員	35名	10名	45名	10名	若干名
志願者数	61名	7名	154名	102名	9名
受験者数	61名	7名	150名	102名	8名
合格者数	46名	7名	80名	42名	3名
実質倍率	1.3倍	1.0倍	1.9倍	2.4倍	2.7倍

■入学者（出身高校）都道府県別内訳

北海道(111名)・青森県(1名)・岩手県(1名)・埼玉県(1名)
大阪府(1名)・他(1名)

男女別内訳



新卒・既卒者内訳



新任教員紹介



老年看護学領域
教授 谷井 康子

谷井康子です。老年看護学の特任教授として四月より赴任いたしました。おひとり住まいの後期・超高齢者の自律した生き方に支えとなっているものに関心をもって研究しています。

生まれは広島県で原爆投下八ヶ月前に生まれました。山間部にいたため被爆はしませんでした。戦争や被爆の悲惨さは身近に感じました。趣味は茶道と外国旅行ですが、近年はどちらにも親しんでいません。将来の夢は茶道の稽古と世界旅行をしながら、色々な国の高齢者の生き方に触れたいと願っています。



母性看護学・助産学領域
教授 小野 清美

岡山から北見に来て三日目に雪が降り驚きました。岡山は雪はほとんど降らないので、銀世界の景色が美しく広がったのを見て感動しました。岡山では助産課程の学

生を担当していました。規定に定められた十例の分娩介助実習には教員と学生も真剣に立ち向かうことと対応してきました。こちらもその点は変わりないよう、十例の重みを感じます。

私のあだ名は「ナプキン先生」と言われております。その訳は研究で生理用品の社会史をやっているからです。皆さんとまた生理用品について研究できたらいいなと思っています。



基礎看護学領域
助教 吉田 理恵

このたび、本学大学院を修了し、基礎看護学領域に着任いたしました吉田理恵と申します。様々な分野での臨床経験と、本学および看護専門学校において約九年の教育経験を経てきました。学生の皆さんが、看護学をまなぶ決意と意欲をもち、邁進していただけるように微力ながら力を尽くす所存です。そのためにも、自らが学び、サイクルング(?)を継続することが一層大事であると考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。

看護開発センターからの案内

「まちなか保健室」で健康相談を開始しました

看護開発センターでは、平成二十二年四月より健康相談を開始致しました。

健康相談は、毎週木曜日十一時から十四時まで「まちなか保健室」(北見市北一条西三丁目、まちなかS HOW 10内)で受け付けており、予約不要かつ無料です。ただし、第一・三木曜日はがんに関する内容、第二木曜日は母子に関する内容、第四木曜日は健康管理に関する内容に限定させていただきます。お問い合わせください。

血圧や体重測定などが可能ですので、皆様お気軽にご利用ください。年間予定表の請求など詳細に関しては、研究地域連携課(E-mail: kenkyuchiki@rchokkaido-cn.ac.jp TEL:011-257-1661(三三二一代) FAX:011-257-1611(三三二五))にお問い合わせください。

出前講義を開始しました

看護開発センターでは、地域貢献の一環として、学外からの依頼に応じて本学教員が各地域に向いて講義を行う「出前講義」を開始致しました。

実施対象は北海道内の市町村等の公的機関、自治会組織、その他各種団体などであり、講義可能な

編集後記

ゴールデンウィークも終わり、講義や臨地実習が再開されています。新型インフルエンザのパンデミックを警戒していた昨年に比べると、落ち着いた日々が流れていて、喜ばしい限りです。

さて、Viva Kango第二八号をお届けします。メイントピックは入学式ですが、いづれも初心に返らせてくれるような内容です。ご一読頂けますと幸いです。

二教職員人事

【退職】平成二十二年三月三十一日付
講師 笹原 千穂
助手 檜山 明子
事務局次長 服部 一喜

【採用】平成二十二年四月一日付
教授 谷井 康子
教授 小野 清美
助教 吉田 理恵
事務局次長 高橋 貢
主事 玉田 有愛
司書 黒田 淑恵

【昇任】平成二十二年四月一日付
講師 村林 宏(助手)
係長 安田 勝彦(主事)

日本赤十字北海道看護大学学内誌
Viva Kango
日本赤十字社 第28号
発行日/2010年5月31日
編集・発行/広報委員会
〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125
mail to: kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp

